

わがまち紹介

桜川市

市民が暮らしやすい 持続可能なまちづくりを進めます

株式会社筑波銀行 真壁支店長
雨貝 康晴



桜川市長
大塚 秀喜氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県桜川市です。筑波銀行真壁支店長 雨貝 康晴が桜川市長 大塚 秀喜氏にお話を伺いました。



サクラの名所として知られる桜川市(写真は「高峯のヤマザクラ」)

主要事業の推進で 「住み続けたい」まちの実現へ

現在、3期目の市政運営を担っているところです。引き続き、本市の最重要課題の一つである人口減少対策をはじめ、桜川筑西IC周辺地区の整備事業、上曽トンネル整備事業、新庁舎整備事業などの主要

事業を進めることで、「住みたい、これからも住み続けたい」と市民が思えるまちづくりを行っていきます。

市民のライフスタイルに応じた 伴走型の支援を強化

桜川市は2022年4月に「過疎地域」に指定され、人口減少対策は喫緊に取り組むべき課題の一つです。本市では同年7月、庁内に「人口減少対策本部」を設置し、全庁を挙げて対策に取り組んできました。

翌2023年度からは総合的な施策として「さくらがわ人生応援プロジェクト」をスタートさせました。これは、市内にお住まいの方、移住される方も含め、市民一人ひとりに市が伴走しながら、それぞれのライフスタイルに応じたお祝い金や補助金の支給などを通じて市民の人生を応援するものです。

たとえば子育て支援では、「子育て3step応援金」として「出産お祝い金」「小学校入学お祝い金」「中学校入学お祝い金」をそれぞれ10万円ずつ支給しています。また、移住される方を想定した「住宅取得助成金」を最大200万円、市内で創業される方に経

費の一部を助成する「賑わい創業支援事業」として最大300万円を助成しています。

今年度(2025年度)は「お試し移住支援事業」など新たに5つの事業を追加し、取り組みのさらなる拡充を図っています。

教育環境の整備と 小中学校、高校との連携

人口減少対策の一環として、学校教育の充実も急務と考えています。小中学校の適正配置については、真壁地区にある市立谷貝小学校、樺穂小学校、桜川中学校、桃山学園を統合し、今年(2025年)4月に真壁学園義務教育学校を開校しました。児童生徒数の減少を踏まえ、1学年を2クラス以上にするすることで、子どもたちが多様な価値観と触れ合えるような教育環境を目指します。

また、今年3月に市内の茨城県立岩瀬高等学校、茨城県立真壁高等学校、私立岩瀬日本大学高等学校の3校と連携協定を結びました。全国的に人口減少が進む中で、各高校とも生徒数の確保が課題となっています。市と3校が協力し、教育や広報などの分野で連携を図ることで、生徒数の確保や地域活性化につなげることを目指します。

具体的な取り組みとして、市職員が高校に出向き、市で取り組んでいる地域活性化や人口減少対策に関する出前講座を実施する予定です。また、卒業生の地元就職促進を目的とした3校合同の就職説明会なども実施したいと考えています。



市内高等学校3校との連携協定

桜川筑西IC周辺地区を 活気あるまちに

桜川筑西IC周辺地区の整備については、商業施設や住宅、医療施設などの機能集積による活気あるまちづくりを進めています。

2018年10月には先行して「さくらがわ地域医療センター」が開院しました。開院から6年が経ち、財政的にも軌道に乗ってきました。また、周辺の道路等のインフラ整備が進み、2022年7月に「大和駅北公

園」が一部供用を開始しました。その後、子育て世代を対象に実施したアンケート調査をもとに、遊具等の増設、築山・園路などの整備を進め、2025年途中で完了する予定です。

週末などは多くの家族連れにご利用いただいています。ただ、駐車場が足りないのご意見もいただいております。周辺に新たな駐車場整備を進める予定です。

念願でありました「(仮称)桜川ショッピングセンター」については、年明けより順次着工し、2026年秋頃の開業を予定しています。

ショッピングセンターの開発にあたっては、2023年8月に市と開発を手がける日計商事株式会社、主要テナントの食品スーパー「ベイシア」の3者が連携協定を締結しました。ショッピングセンター出店による地域振興および経済波及効果の最大化を図るため、相互に連携、協力することで合意しました。

現在、ベイシアのほか、ドラッグストア、飲食店などの出店がすでに決まっており、引き続き出店事業者を募集するサウンディング調査を行っています。ショッピングセンターが多くの方々にご利用いただける、にぎわい創出の場となるように、多くの企業の方々に出店していただければありがたいと思っています。

また、市の施設として、ショッピングセンターとは別棟で直売所の出店を予定しています。農産物等市内産品の販売により、地元生産者の力になりたいと考えています。

さくらがわ地域医療センター東側では2024年、桜川市土地開発公社を事業主体とする「住宅地造成事業(やまとの杜)第1工区」が完了しました。現在、市内外の4家族の住宅建築が完了し、居住されています。ショッピングセンターの開業が決まったことで、住宅を建設される方が増えることを期待しています。また、状況を見ながら、2工区、3工区を進めていく予定です。

上曽トンネルの開通による 観光への波及を期待

従来から整備が進められてきました「上曽トンネル」は、今年秋の開通を予定しています。トンネルの開通により、道路利用者の安全性や沿線地域の利便性が向上します。茨城空港や常磐自動車道へのアクセスも向上することから、地元産業や物流、観光を支える路線となることが見込まれます。

また、トンネル周辺は、本市など6市のエリアで構成される「筑波山地域ジオパーク」に含まれており、トンネルの開通をきっかけにエリアを周遊する観光客が増えることも期待できます。市では、トンネルの入り口に至る道路沿いにサクラの植樹を計画しており、10年後には素敵な景観を楽しむことができると思います。

世界のヘリテージストーンに認定

2024年7月には、「筑波山地域ジオパーク」の地質遺産「筑波山塊の花崗岩」が、国際地質科学連合(IUGS)から世界のヘリテージストーン(天然石材遺産)に認定されました。現在世界では55件が認定されていますが、本認定は日本のみならず東アジア地域では初の認定です。

今回認定された石材は、産地にちなんで「真壁石」(桜川市)や「稲田石」(笠間市)と呼ばれています。これまでに国宝の迎賓館赤坂離宮(東京都港区)など日本を代表する数々の近代建築などに用いられています。

この認定をチャンスととらえ、ヘリテージストーンを全面に出し、市内石材業の発展と本市の知名度向上につなげたいと考えています。



ヘリテージストーンを用いた迎賓館赤坂離宮

新庁舎は防災機能を備えた 市民サービスの拠点へ

新庁舎建設事業は、2028年1月の開庁に向け、今年3月に設計施工一括契約を締結しました。現在の市役所庁舎は、岩瀬・大和・真壁庁舎への機能分散や、エレベーターの未整備、狭あいによる市民サービスの低下に加え、建物の老朽化や耐震性の不足などによる安全面の問題がありました。また、茨城県内で災害対策本部が設置される本庁舎の耐震性が不足しているのは本市のみとなっています。

新庁舎では、これまでの課題であった庁舎機能の集約や耐震基準をクリアした防災拠点機能の整備などにより、市民サービスの充実を図っていきます。

将来的には、DXを活用した「書かない窓口」「行かない窓口」を目指し、庁内の人材育成や外部からの人材採用などにも取り組んでいきます。



新庁舎完成予想図

学びと交流の場として期待 生涯学習センター「さくらす」

今年の2月2日、本市初の公立図書館に公民館、市役所支所機能を備えた桜川市生涯学習センター「さくらす」が開館しました。

「さくらす」の愛称は480件の公募作品から選ばれました。「桜川市(さくら)に暮らす(くらす)人々にとって、生活に欠かせない施設になってほしい」という願いが込められています。

待望の図書館ができたことで連日多くの方にご来館いただいています。懸念していた若年層の利用も非常に多く、学校が終わる時間から閉館時間にかけて多くの中高生が来館しています。

2月の開館から3月末までの来館者数は4万1175人、1日の平均来館者数840人(平日701人、土日祝1080人)と予想外に多く、大変喜んでいるところです。

人気の理由の一つには、禁止事項の少ない居心地の良い場所を目指し、館内は基本的に会話も飲食も可能としていることが挙げられます。

3月22日には、開館を記念して1階の「やまなみホール」で「能楽公演」を実施しました。人間国宝の野村万作氏による狂言「仏師」、牛久市在住の能楽師、山中一馬氏による能「桜川」が上演され、満席となる盛況ぶりでした。能「桜川」は本市にあったとされる磯部寺が舞台で、室町時代に世阿弥が創作した名曲です。

また、イベントとして毎月第3金曜日の午後6時30分から午後8時まで、独身者を対象とした「つながる桜川 ちょい飲み ちょいカフェ交流会」を開催しています。このイベントは、肩肘を張らずに気軽に楽しめる「友活」の場として、友達の輪を広げたい方にぴったりの内容です。ソフトドリンクやアルコール、おつまみを片手にリラックスした雰囲気の中で、新しい出会いや交流を楽しめます。毎回30人ほどの方が参加しており、仕事や普段の生活では出会えないような多彩な人々との会話が弾む場になっています。出会いの場として、まずは友達から、そこから素敵なお縁につながることを期待しています。

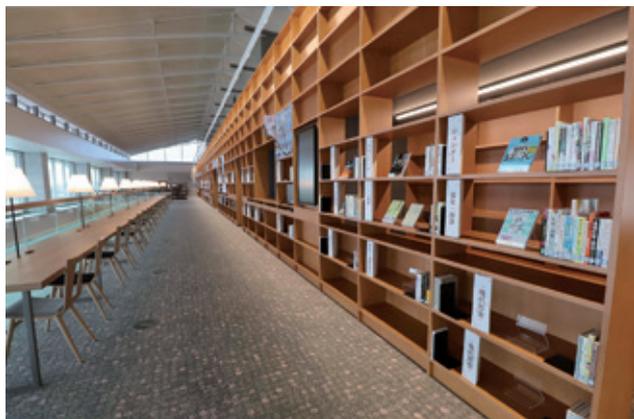
筑波銀行に期待すること

筑波銀行さんには日頃から大変お世話になっています。本市としては人口が増えるのが一番ですから、住宅ローンの運用でご協力をいただければと思っています。また、(仮称)桜川ショッピングセンターに出店を希望する企業の支援にもご尽力いただけると幸いです。

(取材日:2025年5月1日)

桜川市生涯学習センター「さくらす」

2025年2月2日にオープンした桜川市生涯学習センター「さくらす」。図書館のほか、公民館、市役所支所の機能を備えた複合施設です。施設の魅力を4つの特徴からご紹介します。



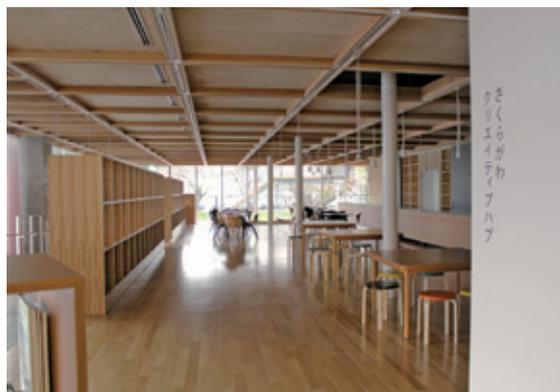
メディアマウンテン

2階と3階には、壁面いっぱいに書棚を配置した「メディアマウンテン」があります。一般的な分類にとらわれないテーマ別の本の配列が特徴で、普段なら手に取らないような本との出会いを誘い、興味や知識の幅を広げるねらいがあります。また、5台のデジタルサイネージを設置し、テーマ別に本を紹介する「みどころCUBE」を導入するなど、リアルとデジタルのハイブリッド図書館を体現しています。さらに、各所には展示スペースが設けられ、市民のさまざまなアイデアによる情報発信のスペースとしての活用が期待されています。



クリエイティブハブ

1階にはキッチンや3Dプリンターなどを備えた有料の貸しスペース「クリエイティブハブ」があります。市民による自由で多様な活動の場として、調理や工作、発表会、展示会などさまざまな形で活用できます。



さくらテラス

2階と3階に設けられた屋外テラスは、眼下を流れる桜川や隣地に広がる広大な桜並木、筑波山系の山々、そして富谷山を一望できる特別な場所です。眺望を楽しみながら読書や自習ができるほか、ペットの同伴が可能で愛犬と一緒に過ごすこともできます。水場や電源を完備、3階には野外ステージもあり、イベントなどさまざまな活動に利用できます。

南側駐車場

駐車場としての役割だけでなく、各種大型イベントの実施にも対応しています。真夏の暑さを軽減するために保水性のある白いカラー舗装を施し、外部電源も完備しています。テラス席と併せて利用することで、一層多目的に活用できます。